

# 虐待防止委員会運用指針

特定非営利活動法人なのはな徳島

虐待防止委員会

# 虐待防止のための指針

## 1 施設における虐待防止に関する基本的な考え方

虐待は人権侵害であり、犯罪行為という認識のもと、障害者虐待防止法の理念に基づき、利用者の尊厳の保持・人格の尊重を重視し、権利利益の擁護に資することを目的に、虐待の防止とともに虐待の早期発見・早期対応に努め、虐待に該当する次の行為のいずれも行いません。

- ①身体的虐待：利用者の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく利用者の身体を拘束すること。
- ②性的虐待：利用者にワイセツな行為をすること又は利用者にワイセツな行為をさせること。
- ③心理的虐待：利用者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的な言動その他の利用者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。
- ④放棄・放置：利用者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、他の利用者による①から③までに掲げる行為と同様の行為の放置その他の利用者を養護すべき職務上の義務を著しく怠ること。
- ⑤経済的虐待：利用者の財産を不当に処分することその他利用者から不当に財産上の利益を得ること。

## 2 虐待防止委員会その他施設内の組織に関する事項

### ①虐待防止委員会の設置及び開催

虐待発生防止に努める観点から「虐待防止委員会」（以下、「委員会」という。）を設置します。委員会は、年 1 回以上開催し、次のことを協議します。

- (1) 虐待の防止のための指針の整備に関すること
- (2) 虐待の防止のための職員研修の内容に関すること
- (3) 虐待等について、職員が相談・報告できる体制整備に関すること
- (4) 職員が虐待等を把握した場合に、市町村への通報が迅速かつ適切に行われるための方法に関すること
- (5) 虐待等が発生した場合、その発生原因等の分析から得られる再発の確実な防止策に関すること
- (6) 再発の防止策を講じた際に、その効果についての評価に関すること

### ②委員会の構成員

委員会の委員長は副理事長とする。委員の選任については、当該事業所の管理

者及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、看護師、理事長、その他必要とされる者の中で委員長が指名した者とする。

### 3 虐待防止のための職員研修に関する基本方針

虐待防止のための職員研修を原則年 1 回および職員採用時に実施します。

研修内容は、基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するものであるとともに、本指針に基づき、権利擁護及び虐待防止を徹底します。研修の実施内容については、研修資料、実施概要、出席者等を記録し、電磁的記録等により保存します

### 4 虐待又はその疑い<以下、「虐待等」という。>発生時の対応方法に関する基本方針

虐待等が発生した場合には、速やかに市町村に報告するとともに、その要因の除去に努めます。客観的な事実確認の結果、虐待者が職員等であったことが判明した場合には、役職位の如何を問わず、厳正に対処します。

また、緊急性の高い事案の場合には、市町村及び警察等の協力を仰ぎ、被虐待者の権利と生命の保全を優先します

### 5 虐待等が発生した場合の相談・報告体制に関する事項

職員が利用者への虐待を発見した場合、虐待防止担当である担当者に報告する。虐待者が担当者本人であった場合は、虐待防止責任者に相談する。

2 担当者は、相談窓口を通じての相談や、上記職員等からの相談及び報告があった場合には、報告を行った者の権利が不当に侵害されないよう細心の注意を払った上で、虐待等を行った当人に事実確認を行う。虐待者が担当者の場合には、虐待防止責任者が担当者を代行する。また、必要に応じ、関係者から事情を確認する。これら確認の経緯は時系列で概要を整理し速やかに市町村に通報しなければならない。

3 事実確認の結果、虐待等の事象が事実であることが確認された場合には、当人に対応の改善を求め、就業規則等に則り必要な措置を講じる。

4 事実確認を行った内容や、虐待等が発生した経緯等を踏まえ、虐待防止委員会において当該事案がなぜ発生したか検証し、原因の除去と再発防止策を作成し、職員に周知する。

5 虐待を行った者へは、対応の改善を求め就業規則等に則り必要な措置を講じる。

### 6 成年後見制度の利用支援に関する事項

利用者又はご家族に対して、各担当者は利用可能な成年後見制度について説明し、その求めに応じ、社会福祉協議会等の適切な窓口を案内する等の支援を行う。

### 7 虐待等に係る苦情解決方法に関する事項

虐待等の苦情相談については、受付担当者は寄せられた内容について各担当者に報告する。

当該担当者が虐待等を行った者である場合には、虐待防止責任者に相談する。

2 相談窓口寄せられた内容は、相談者の個人情報の取り扱いに留意し、当該者に不利益が生じないように、細心の注意を払う。

3 対応の流れは、上述の「5 虐待等が発生した場合の相談・報告体制に関する事項」に依るものとする。

4 相談窓口寄せられた内容は、相談者にその顛末と対応を報告する。

## 8 利用者等に対する当該指針の閲覧に関する事項

当該指針は、事業所内に掲示等するとともに、ホームページにも掲載し、利用者及び職員等がいつでも閲覧できるようにします。

## 9 その他虐待防止の適正化の推進のために必要な基本方針

「3 虐待防止のための職員研修に関する基本方針」に定める研修のほか、外部機関により提供される虐待防止に関する研修等には積極的に参画し、利用者の権利擁護とサービスの質を低下させないように常に研鑽を図ります。

2022年4月1日 制定

2023年3月3日 改定

別表

		役 職
委員長	〇〇〇〇	副理事長（虐待防止責任者）
副委員長	〇〇〇〇	サービス管理責任者（虐待防止担当者）
	〇〇〇〇	生活相談員（虐待防止担当者）
	〇〇〇〇	児童発達支援管理責任者（虐待防止担当者）
委員	〇〇〇〇	理事長
	〇〇〇〇	（虐待防止受付担当者）
	〇〇〇〇	
	〇〇〇〇	
	〇〇〇〇	（看護師）

\* 虐待内容及び通報状況によって委員は変更することがある。